



# 擁翠園

yousuien



## Location

〒602-0008 京都市上京区岩栖院町59番地 擁翠園内  
がんすいんちよう アークレイ株式会社 ようすいえん 京都研究所

京都市営地下鉄 烏丸線「鞍馬口」駅2番出口より徒歩5分  
 鞍馬口通り南側に面しております。一見、研究所とはわかりにくい外観となっております。  
 お車の場合は、正門前にお停めいただけます。



## Information



JR京都駅中央改札口横に、幅11メートル・高さ2.7メートルの  
 アート広告を掲出しています。  
 京都駅にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

アークレイ株式会社



## About the Yousuien

擁翠園の歴史は室町時代に遡ります。

足利三代将軍 足利義満の管領 細川満元が、金閣寺造営の余材をもって築いた邸宅がその始まりです。この邸宅は、応永三十三年(1426年)細川満元の没後、がんすいん 岩栖院という寺に改められ、慶長十五年(1610年)徳川家康から旧領として後藤長乗ちようじように与えられました。代々金工を業とし、特に刀装の金具に優れた技術を伝える後藤家の次男であった後藤長乗が、加賀藩第二代藩主前田利常や、武士であり茶人であった小堀遠州の助力を得て造園した庭園が擁翠園です。

冬の白椿ぎせつ「欺雪」から、春は枝垂れ桜と竹林の筍、花水木が夏の訪れを知らせた後は、紅白の百日紅さるすべりに池の睡蓮、秋には庭園を紅く染める紅葉。江戸時代に発達した日本庭園の様式「池泉回遊式」で作られた擁翠園は、池を中心として左回りに絶えることなく花が咲き、四季折々の風情を楽しめる趣き深い庭園となっています。



「京華林泉帖」より 明治42年(1909)



京都地方貯金センター時代 昭和30年(1955)



**切支丹灯笼**  
(きりしたんとうろう) ④

庭園内にあるいくつかの石灯笼のうち、稲荷社手前がある織部型の石灯笼は「切支丹灯笼」と呼ばれる。当時は土に埋まっていた灯笼下部には仏像と見せかけたマリア像が刻まれており、隠れキリシタンが密かな信仰の灯火をとすために偽装したものと伝えられている。



**稲荷社・十二社**  
(いなりしゃ・じゅうにしや) ⑤

向かって左が稲荷社、右が十二社。十二社は元禄11年(1688年)後藤長乗により勧請され、稲荷社は文政10年(1827年)紀州徳川家一条大政所 源得子がこの地に勧請したといわれている。



**正門**  
(せいもん) ⑥

武家屋敷の正門として用いられる陣中幕張門と呼ばれる様式であり、今回の研究所建設にあたり修復された。本敷地は、あくまでも擁翠園であるため、あえて正門に弊社の社名看板は掲げていない。



**蓬莱島**  
(ほうらいじま) ⑦

擁翠園の池は琵琶湖を模して作られており、中央の蓬莱島は竹生島、石橋は瀬田の唐橋にあたる。現在、池には新潟から嫁入りした錦鯉が泳いでおり、冬には鴨がつかいで訪れる。



**あずまや** ③

擁翠園は、遠く東に広がる東山や比叡山などの美しい景色を借景としている。擁翠園西側の高みにある「あずまや」では、その美しい情景を眺めながら、角井筒の汲み水を用いて野点が楽しまれていたといわれている。



**船倉**  
(ふなくら) ②

檜皮葺きで作られた船倉には底の浅い高瀬舟がつかがれており、実際に使えるよう修復されている。かつては、池に船を浮かべて美しい情景を楽しみ、送り火の夜には池に映る大文字を船から鑑賞したといわれている。



**七面大明神**  
(しちめんだいみょうじん) ⑧

七面大明神は山梨県身延山の鬼門を封じて七面を開く神とされている。このため、擁翠園の鬼門にあたる場所に七面大明神を建立したといわれている。



**多羅葉**  
(たらよう) ⑨

別名「葉書の木」とも呼ばれる。インドで経文を書くのに用いたヤシ科の多羅樹の葉に由来。葉の裏に傷をつけると跡が鮮明に残る性質があり、戦国時代には、武士がこの葉に文字を書いて便りを出したことから「葉書」の語源になったともいわれている。



**唐破風鳥居**  
(からはふとりい) ①

曲線形の笠木(鳥居最上部の横木)を持つ唐破風型という珍しい鳥居で、京都三珍鳥居の一つ。平清盛が安芸の厳島神社にあった唐破風型石鳥居を兵庫に移し、足利義晴がこの地に移したと伝えられている。明治初年に京都御苑「拾翠園」の弁財天に献上されたため、現鳥居は研究所建設にあたり忠実に復元されたものである。



**白椿 欺雪**  
(しらつばき ぎせつ) ⑫

純白の花を咲かせる銘木の2代目。「雪を欺く」と書いてギセツと読み、明治天皇の曾祖父にあたる第119代天皇・光格天皇の命名と言われる。欺雪の名は花の白さからではなく、吹雪がかかったような白い斑が見られる葉から命名された。接木が繰り返されたことで、現在、白い斑入りの葉はほとんど見られない。



**後藤ふじ**  
(ごとうふじ) ⑪

擁翠園を長きにわたり所有していた、後藤家ゆかりの藤。現在の藤は二代目となり、樹齢は300年程度といわれている。



**角井筒**  
(つのいづつ) ⑩

かつてはこの井戸の水をお茶会に使用していたと思われるが現在は枯れている。研究所建設にあたり、新たに井戸を掘り池に水を供給している。

